

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日, 評価結果市町村受理日. Content includes 0170201628, ミニヨンプレイス, グループホーム あいの里東倶楽部, 札幌市北区あいの里3条7丁目5番7号, 2020年11月19日, 令和3年1月4日.

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, URL address: https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou\_detail\_022\_kihon=true&ligvosyoCd=0170201628-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日. Content includes 特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット, 札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401, 令和2年12月15日.

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームあいの里東倶楽部は普通の家庭です。昔、皆さんがおうちで暮らしたように、ここではいつも廻りには家族がいます。普通の家庭で普通に見ることが出来る、今まで気にも止めなかった風景です。包丁とまな板で食材を刻む音、掃除機の音、テレビの音、わんこの声、いびきの音がいつも聞こえてきます。あなたの探している暮らしがきっと見つかります。「あいの里東倶楽部 わんこ」で検索していたら、上位にあいの里東倶楽部のホームページを見つけることができます。ホームの雰囲気や空室を探しているご家族にも優しく案内をしています。ご家族との連絡は主にメールを利用して、タイムリーに行っています。毎日欠かさず、1日1,600ml以上の水分補給、朝食に納豆、夕食に煮豆を提供しています。おかげで、一人も風邪をひくことなく3シーズン目を迎えています。小規模なホームですが、入居者ファーストのため今後も様々な試みを実践していく所存です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は市内の北東部、大規模開発された住宅地にあり、周囲は大きな公園や小学校、教育大学と文教地区らしい静かな佇まいの中で、大型の戸建て住宅が立ち並び一画にごく普通の家屋として立地している。建物は一般住宅を活用した2階建て、改造も内部のみで外見は介護用住居とはわからないほど周辺に溶け込んでおり、8人の高齢者の静かで落ち着いた生活を提供している。開設は2003年、介護実績の積んだ前社長が理想の介護を目指し、当時は6人1ユニットで始まり、現在は8人の定数で事業を展開している。当事業所の優れている点は、利用者の特性に沿った介護を実施している点を挙げたい。少人数のホームでは親近感が強く曖昧な関係性に陥る場合も多いが、当事業所では近しい関係性であるからこそ科学的な介護計画の策定と、進捗度の把握のための日々の記録を重要視し、常に目的を持った介護に努めている。またホームページから利用者の日常生活の紹介は頻繁に更新しているが、アクセスは家族に限定するなど最低限のプライバシー確保を前提に情報公開に取り組むなど、介護の基本を守りながら利用者ファーストのため多様な試みを実践している当事業所に今後も注目したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 contain evaluation data for various service aspects like staff understanding, user participation, and safety.

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はいつでも見られる場所に掲示され、それを意識した行動を身に付けられるようになっていく。	「ありのままを受け入れる家・ひとり一人を大切にできる家・支え合い寄り添う居心地のいい家・家族が安心してまかせられる家・自分が住みたいと思う家・地域に理解支援をいただける家」の6項目を理念、バイブルとして介護の中心に据えて、日々実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事、お祭りや敬老祝賀会などで、地域の皆様と一体となり活動しています。	開設後17年が経過し地域との一体化が進んでいる。具体的には町内会の役員を担ったり、生徒や実習生を受け入れたり、お祭りに参加したりと、長年の成果が結実してきており、信頼性の高い地域との交流が続いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	可能な限り地域の方を介護スタッフとして雇用させていただき、なお一層の認知症の理解を広げていけるよう努力しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ケアに関する活動の報告を行い、参加者の方から様々なご意見やご指導をいただくとともに、どのようにそれを取り込んでいくべきかミーティングでスタッフを交えて議論を行っている。	地域の代表や包括職員、家族や利用者の参加で2ヶ月ごとに定期開催している。行事の内容や外出だけではなく、事故やヒヤリハットも報告し、事業所の理解や多様な意見が得られるよう会議運営に努めている。議事録は関係機関や全家族に送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	札幌市介護保険課の担当者とは、通常はメールにて報告や指導を受けており、関係が築かれている。	札幌市の介護保険課や区の相談窓口とは、制度の改正点や運用での疑似解釈について電話や窓口で気軽に問い合わせられる関係で情報交換も随時行われ、また管理者会議にも必ず出席し、信頼できる関係となっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止対象の具体的な行為を含む説明は、スタッフが常に見られる場所に掲示されており、常に正しく理解出来るようになっている。	指針に基づき、運営推進会議時に身体拘束等拘束適正化委員会を年に6回の頻度で開催し、日々適正に行っている介護を検証しており、拘束も抑制もない介護をスタッフ全員で確認している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修で高齢者虐待防止教育を行い、事例シートをもとに虐待防止への勉強を行っている。日中は常に管理者に常駐しているので、自然と抑止力となっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援事業や成年後見制度を利用できるように運営推進会議にて共有できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の際には疑問が残らないように説明を行っている。特に退所をお願いする要件については、その判断基準や精算方法を詳細に説明している。そのため退所される時及びその後も良好な関係が維持されている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者やご家族の要望は運営推進会議で外部に発信され、メール等でも常時受付している。可能な限りご家族等の要望をケアに反映させるように心懸けている。	利用者の様子はホームページで随時確認できる様に工夫し、またお手紙を請求書に添えて送るなど多くの情報を伝え、意見や要望を得られるよう努めており、また出された苦情等には誠実に対応している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝のミーティングや不定期のスタッフ懇親会では、様々な提案が出され議論の上、活動に反映させている。	少人数の事業所であり、寛いだ関係で意見や提案を受け入れ、検討している。また必要に応じて個人面談も設定し、風通しの良い職場環境作りに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則を整備し、給与規定を改定して、経験や成果が反映されて納得感を得やすいものとし、スタッフが働きがいのある環境を整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	可能な限り積極的に外部の研修を受ける機会を設けている。スタッフも時間の都合を付けながら意欲的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	札幌市北区グループホーム管理者連絡会に参加して、会の主催する研修会等で、他のホームのスタッフと交流する機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族より事前にご本人の状況を伺い、入居当初は大変不安を抱きがちなので、落ち着くまでの数日間は重点的に寄り添ってご本人の意向や要望を聞き出すことに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が不安に感じていたり、困っていることを解消すべく、入居当初は頻繁にご本人の様子をメールにて伝え、画像を添付することで、より安心を抱いていただくよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族のその時の関係や状況を聞き取りし、今後の支援について提案しながら必要なサービスを利用できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフと入居者の関係は可能な限り家族のような関係となるように、またその際はご本人の納得感が感じられる関係を築くよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族の関係に配慮しつつ、協力してご本人を支援する関係を築けるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者やご家族により、馴染みの関係の維持を要望される場合は、ご本人が混乱をされないようさりげなく支援をしている。	今までの関係性を重要な視点と考え、馴染みの場所や友人、家族との時間を大切に支援している。具体的には家族との外出、お盆の墓参りや神社の参拝、お正月の外出等一人ひとりの今までの暮らしが途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士はスタッフを介して関係を構築している。年齢や性格、相性を見極めて、さりげなく良い関係が継続できるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族に希望を伺い、それに応じた相談や支援を適時行うよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人から暮らしの希望を尋ねて試行錯誤を重ねるが、意思表示が困難な場合などは都度ご本人に是非を示していただけるよう努めている。	生活を支える中で、希望や思いを理解して意向に沿えるように努めている。意思疎通が苦手や困難な場合でも、仕草や表情から、また本人の職歴や生活史から、本人本位の生活になるように支援している。	少人数の特性を活かした本人本位の介護姿勢に敬意を表したい。今後は本人が最後の時間をどこで過ごしたいのか等の最終段階での希望・意向に関して、定期的に具体的な思いを聞き取り・記録し、より本人本位の介護となるように期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人のこれまでの暮らしについてご家族から可能な限り聞き出し、ご本人との会話で得られた生活履歴等をご家族に確認するなど、ご本人の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、ご本人の活動状況、睡眠時間、排泄状況やできていることをスタッフが把握しながら共有し支援しており、症状の変化を早く察知できるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネとスタッフでご本人の状況を話し合い、計画の原案を作成しご本人・ご家族に提示してご意見をいただきながら、より現況に即した介護計画を作るよう努めている。	介護目標はスタッフとケアマネで確認し、当事者や家族の意見も取り込み作成している。また介護日誌には介護目標への実施欄があり、日々進捗状況を把握しながら一人ひとりの介護に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケアの記録には、できなくなってしまうこと、注意を払わなければならないこと、短期目標活動状況等を的確に記録し、朝のミーティング、夜勤者への引継でスタッフに共有されて実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族やご本人の年代や状況が変化の中で、ニーズの変化に対応した家庭の雰囲気を作り出す工夫をしている。多機能化ではなく柔軟対応化すべく取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会とは官理者が役員活動をしているので、良好な関係を維持しています。町内会長・民生委員や近隣の皆様からお声をかけていただいたり、差し入れを頂戴したりしている。近隣小学校や中学校から行事参加のお誘いがきています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの主治医との関係継続を支援している。またホームのかかりつけ医とも開所時から良好な関係であり、いつでも受診が可能ないように支援している。	基本は協力医の往診により、適切な医療を提供している。かかりつけ医の継続も利用者と家族の意向を尊重し、協力医と変わらない支援体制で臨んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師ではなく、かかりつけ医が入居者の変化に対応して往診や相談の支援を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には速やかにご本人の状況等の情報を病院側に伝えられるように努めている。また入院後も適宜にご本人と面会し、医師・看護師より症状を伺い、退院後のご本人への対応について、ご家族と早めに相談をしながら可能な支援を行うよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前にご家族等にホームの「重度化した場合における対応及び看取りに関わる指針」を説明し、ご理解のもと契約を行っている。	入居前に「重度化した場合における対応及び看取りに関わる指針」を書面で説明し同意を得ている。最終的な看取り介護には至っていないが、希望があれば出来る範囲で寄り添い、本人や家族にとって最適な支援になるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜勤勤務があるスタッフは普通救命講習を受講して入居者の急変に対応可能な体制を整えている。また、日頃より症状の変化が見受けられそうな方を対象に処置のシミュレーションを行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上避難訓練や消火訓練等を行って、入居者とスタッフの生命を守ることを身につけるよう努め、町内会を通じて災害時の援助等を依頼している。	年に2回、避難訓練を消防署の指導により、地域住民の協力を得ながら実施している。食料の備蓄もあり、また停電時対応に石油ストーブも用意し、不意の災害に備えている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	家族のような関係を損なうことなく、プライバシーに配慮し、人生の先輩としてリスペクトすることを基本とした会話や対応を心懸けている。	接遇は介護の基本であることを常に意識して介護に臨んでいる。特に排泄誘導や入浴時等で尊厳を損なっていないか、礼を逸していないか、職員間でお互いに注意し日々取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望や思いは可能な限り満足して頂けるよう心懸け、ご本人の状況に合わせて自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のその日の状況に合わせて、活発化できるメニューを相談しながら実施している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節感や色合い、流行を配慮したご本人らしい着こなしが出来るよう、相談しながら支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は調理師資格者が中心で、その日感や皆さんの様子に合わせて食事をつくり、ご本人の力に合わせて食後の片付けを協力しながら行っている。	調理一般や片付けも利用者個々の力を大切にしながら一緒に行い、楽しい食卓になるよう努めている。管理者は調理師資格を有しており、栄養バランスや嗜好、身体に応じて形態や補食の工夫をしながら、また外食での気分転換も楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事はご本人の状況に合わせて、摂取量、摂取熱量を含めて栄養バランスが適度となるように提供されており、摂取水分量は過不足にならないよう記録されている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後の口腔ケアは最大限ご本人の力で行うよう支援し、その状況により清潔を維持するための確認と介助を行うようにしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	スタッフは入居者各位の排泄パターンやサインを理解して、可能な限りトイレで排泄できるように支援している。	トイレでの排泄を基本として、時間で誘導し排泄を促している。その他、利用者個人の排泄サインも職員で共有し、本人が負担にならない様、自然な形で排泄支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事やおやつで繊維質や乳酸菌など便秘予防に効果的なものを摂取するように心懸けるとともに、主治医と相談しながら便秘防止の医療的指示を受け、対応支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の体調を考慮し、体調変化に対応できる午前中に入浴を行っており、ご本人の納得の上入浴を楽しんでいただいている。	週2回を目途としているが、その時の状況に応じ柔軟に入浴を支援している。入浴拒否者へは時間や介護員に変化をつけ、無理強いしない対応をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の習慣や要望に応じて安心してお昼寝や休憩を取れるようにさりげなく支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフは入居者の薬の目的を基本的な部分は理解しており、特に重要性があるものについては管理者より注意事項が指示され、症状変化の把握とともにご本人を支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の力に応じて、お手伝いなどのやりがいを見つけていただき、役割を得ながら張り合いを持って一日を過ごせるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日などは、ご本人と相談しながら散歩に出かけるよう努め、ご家族とともにドライブに出かけたり、食事に出かけられるようご本人とご家族を支援している。	紅葉や桜見分等のドライブで気分転換を図り、また近所への散歩や近くの複合大型施設での買い物、身近な散歩に力を入れて支援している。墓参りや大きな買い物等は家族の協力を得ながら支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族よりお小遣いの金銭管理を依頼されているので、ご家族やご本人の希望により適切に使われていくように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人とご家族の状況や希望によって、できる限りの支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の場所は今まで過ごしていた自宅と大きく変わっていないので、混乱や不穏を招くことはなくすんなりと受け入れられている。普通の家庭の雰囲気を保てるよう生活感のある心地よい居住空間を創っている。	建物は一般住宅であり、今までの生活を違和感なく継続できる造りとなっている。また不具合等は1級建築士、建築施工管理技士の管理者が使いやすい様に改造し、利便性の高い工夫がなされるなど、実家に戻ったような安心感で過ごせる場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーに座ったり、寝そべったりすることができる。畳の小上がりもあり正座も雑魚寝もでき、思い思いに過ごせるよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と相談して、ご本人の状況を配慮しながらご本人が使い慣れたものを自室に置いていただくようお願いし、少しでも住み慣れた空間を再現できるよう工夫している。	家屋改造型のため部屋の大きさは様々だが、使い慣れた家財や家族の写真もあり、自分の部屋として居心地のよい工夫が感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、階段、トイレには手摺りを設置し、自力で歩行ができるように配慮され、床の段差は多少はあるが、そのバリアを乗り越えようとすることで活性化が図られ、安全に留意された環境になるよう工夫している。		